

# 事故防止コンサルタントの活動日誌

重大事故防止活動について

SOMPOR スクワマネジメント株式会社  
シニアプロフェッショナル

落合 律

最終回

## はじめに

日頃から安全運転管理者（以下、管理者という）が熱心に事故防止活動を実施し、運転者が交通安全を心がけ、慎重な運転をしたとしても、残念ながら交通事故が発生する可能性はなくなりません。また、交通事故が引き起こす被害のレベルも様々で、ボディが少し傷つく自損レベルの事故か、人身事故などの重大事故かは、事故が発生した後でなければわかりません。ただ、内容が重大事故だと事故を引き起こした運転者はもとより、社有車を保有する企業に

も責任が重くのしかかることとなります。そこで今月は重大事故防止活動について説明します。

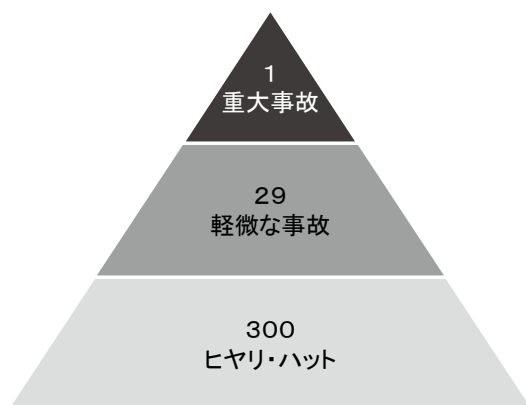
## 重大事故防止のために

コンサルティング先の事故防止に関する打ち合わせに参加した際に、管理者から「当社はバックの際や狭路走行の際にボディを傷つける程度の事故は多くありますが、重大事故はないので大丈夫です。」といわれることがよくあります。しかし、この認識はリスク管理の観点から問題があるといわざるを得ません。「一つの重大事故の背後には29の軽微な

## 事故件数を減らすために

事故件数を減らすためには、管理者が運転者に交通安全に関する「知識」「技術」「意識」を身に付けてもらうように指導することが必要です。「知識」「技術」の習得に関しては従

## ハインリッヒの法則



図

来から安全運転講習、自動車教習所における運転実技指導などがあります。また、最近ではITやAI技術を活かした自動車の運転支援装置や、事故防止に関するアプリなどが的確かつ迅速に交通安全に関する「知識」「技術」習得のアシストを提供できるようになっています。一方、「意識」は習得することはできても定着することは難しいといえます。なぜならば、交通安全は「あたりまえ」のことなので強く意識づけられることなく、多忙な日常生活の中で「油断」

## 事故件数削減活動の「型」

「焦り」「慣れ」などの要因で失念された結果、重大事故に結びつくケースが多くあります。このようなことから交通安全の「意識」をいかに運転者の安全運転行動に活かすことができるかはとても重要なことです。

重大事故防止のためにまず、すべきこととして「軽微な事故も含め、事故件数を減らす」ことはおわかりいただけたと思います。ただ、事故件数削減活動を開始してみたものの「思ったように事故削減の成果が出ない」「やり方に自信が持てない」といった悩みを管理者の皆さまからよく聞きます。これはおそらく自身自身で納得できる事故防止活動の「型」がないからかもしれません。

私が考える事故件数削減が実現できる活動の「型」は自動車事故防止活動に関する「PDCAサイクル」を回し続けることです。PDCAサイクルとはPlan（計画）↓Do（実行）↓Check（測定・評価）↓Act（改善）を繰り返すことで、

## 事故削減効果が期待できるPDCAサイクルのCのすすめ

それでは簡易で成果の期待できるPDCAサイクルのCのやり方を紹介します。



イラスト・本田牧子

1 まず、事故防止に関する取組状況について運転者へ実施状況を質問することをお勧めします。アンケート項目の具体例としては「職場における事故防止活動を理解していますか?」「今月の安全標語を言えますか?」などがよいでしょう。その結果、現在実施している事故防止活動が職場であまり浸透していないという残念な結果が出るかもしれませんが、現場の

実情を的確に把握する手法として有効です。改善のきっかけになります。

2 次に当初計画された施策が確実に実施されているかについて点検しましょう。時間がない、対象者が集まらないなどを理由に実施されないことがあります。計画された施策は確実に実施しなければ、当然、効果は見込めません。

3 職場内で施策が周知され、期待する効果が出ているかを確認しましょう。例えば、今月の事故防止テーマを決めたのであれば、その内容がきちんと周知されているか職場の複数の人たちに聞いてみましょう。周知できていないようであれば、その要因を分析し、改善することが必要です。

### 継続的取組

管理者の皆さまから「いつまでこの事故防止活動を続ければよいのか?」と聞かれることがあります。事故防止の特効薬は残念ながらありません。永続的な自動車事故件数削減を実現させるためには、自動車事故防止活動を「安全文化」として職場内に浸透・定着させることが必要です。そのためにはPDCAサイクルを1回（あるいは数回）で止めることなく永続的に回し続け、スパイラルアップさせることが必要です。ただ、これは「言うは易く、行うは難し」です。私は、自動車事故防止活動を前向きに取り組むためには、比較的達成可能な目標も計画に織り交ぜ、たとえわずかでも「事故防止の成果を出し続けること」が必要だと思っています。成功体験がなければ物事の継続は難しいからです。

### おわりに

長らく掲載させていただきました本シリーズは今回で最終回です。多くの職場で実施いただいている交通安全に関する活動から効果が見込める内容をお伝えしてまいりました。少しでも参考にしていただき、これからの事故防止に役立つことを祈念しております。

(おちあい・りつ)